

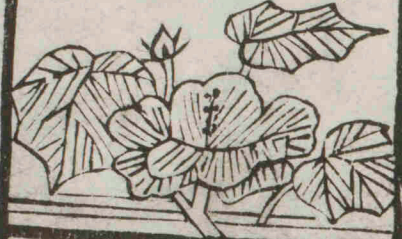
解剖訓蒙

神經論

十六



慶應義塾
醫學部
圖書室



201

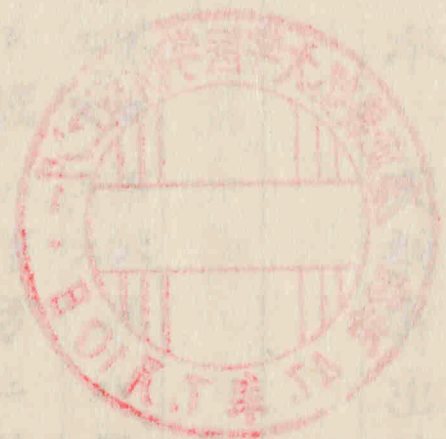
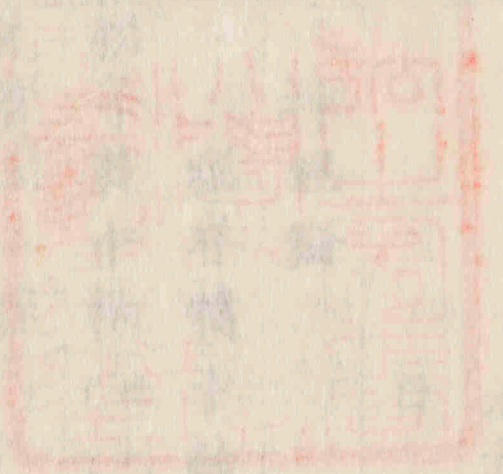


k10-2

F 15
カ-22



清刻... 卷之十...



藏文... 印

Vertical text columns on the left side of the page, including the characters '清刻' and '卷之十'.

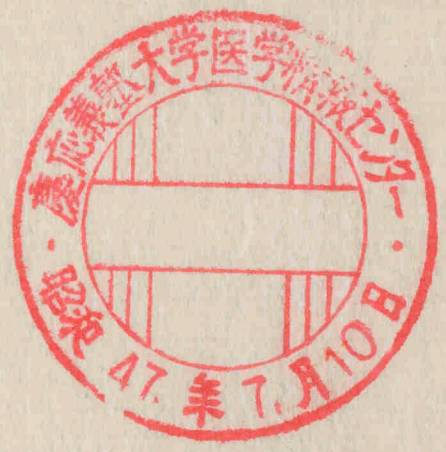
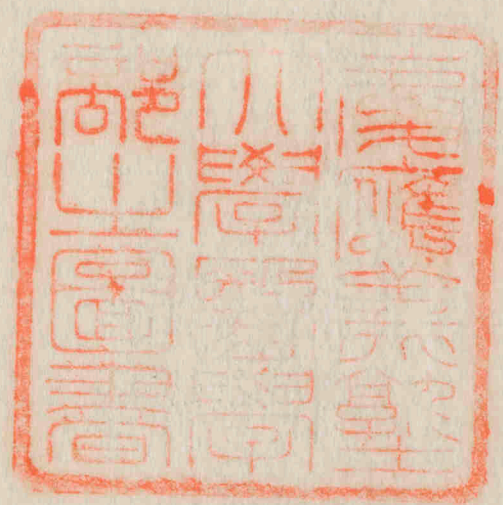
Vertical text columns in the middle of the page, including the characters '清刻' and '卷之十'.

Vertical text columns on the right side of the page, including the characters '清刻' and '卷之十'.



491.1
Ka-3
15

No. 2401
R K 10-2



富士川文庫

2461



解剖訓蒙卷之十六

氷利堅 解剖學教頭約瑟列第著
日本 文剖省出仕副嶋之純譯

神經論

腦脊髓中軸

腦脊髓中軸 セレブレロ、エキシス パイハ、頭顱骨ノ腔中ヲ

充實スル腦 ブレント 腦ノ下方ニ延辰シテ、脊椎骨

ノ管中ヲ填塞スル 脊髓 ル、コパイルトヨリ成ル形

チ等邊同狀ニシテ、其兩半部ハ中線ニ沿テ、神

經質ノ結合 コム シニテ互ニ連束シ、腦脊髓神

解剖訓蒙

卷之十六

一

經セレブレナレ、子ブレロスパイノ起點ト為レリ、而テ頭顱骨及ヒ脊椎骨ト、其他猶オ硬、軟、蜘蛛糸ノ三膜ニ由テ被包ス

腦

腦ブレハ、思慮感覺、智識精神ノ府ニシテ、其質ハ神經質ノ大塊ヨリ成リ、膜ニテ被包シ、全ク頭顱ノ腔中ヲ填實ス

腦ノ大小輕重ハ、人種、男女、年齢ノ少長、身軀ノ大小、及ヒ健康羸弱等ノ差異有ルニ從ヒ、人々同一ナラスト雖ヒ、白哲人種ハ、槩子皆最大ナリトス、

若シ人種、男女、及ヒ其他各般ノ景態、差異ナクシハ、腦ノ度量ハ、獨リ其人ノ智愚賢不肖ニ從フ

白哲人種ノ成男ニ於テハ、腦ノ概量五十オンストス、成女ニ於テハ、其五オンストヲ減ス、故ニ身軀ノ全量ニ比較セハ、男女ノ差異甚々微ナリ又タ兒子ニ於テ、其軀重ニ比スレハ、其二十分一ニシテ、成人ニ於テハ、三十五分の一ナリ

兒子ノ腦ハ、柔軟ニシテ、パツク様ナレトモ、年長スルニ從ヒ、漸々強硬ト為リ、成人ニ至レハ、新製乾酪ノ如シ、而シテ其異重ハ殆ント水ニ齊シ、其外部

ハ帶赤灰白色ヲ呈シ、形チ卵圓狀ヲ為シテ、后端ハ前端ニ比スレハ廣ク、上部ハ凸隆シ、下部所謂基礎ハ、不平ニシテ、大小不等ナル四個ノ分界ヲ呈ス、乃チ大脳、小脳、橋及ヒ延髓是レナリ

大脳

甲セレプロム、マクニユム

大脳^甲セレプロムハ、全脳ノ七分六部ヲ形成シ、全ク腦ノ上部ノ縦横経緯ニ瀰漫シ、形チ半卵圓狀ニシテ、狹端ハ前方ニ向ヒ、凸面ハ上方ニ向ヒ、最廣部ハ顱頂結節ニ對ス、

乙セリオルロシキニチレ、サイノス

其上部ニ深キ裂間アリ、之ヲ大縦裂間^乙グンリジト

コシナルヲト稱ス、其全徑ニ達シ、前後兩端ハ、全ツジユールト深部ニ届ル、大脳鎌狀中隔茲ニ占居シテ、其上縁ニ沿ヒ上縦竇ヲ有ス

甲ヘミスエーリア、セレフリ

大脳ノ半部ヲ、大脳半規形^甲ヘルミス、ト稱ス、其相接スル面ハ、大縦裂間ニ對シテ、平板ヲ為シ、外面ハ凸隆シ、下部ハ三對ノ大脳葉^乙セレプロラス、ヲ形成ス、之ヲ前葉、中葉、后葉ト稱ス

乙ロビ、アンテリオルス

前葉^乙アンテリオルスハ、頭腔ノ前窩ヲ領シ、眼窩位ノ上方ニ占居ス、中葉^丙ミッドル、ハ大脳ノ最廣部ニ

丙ロビ、メジ

シテ、頭腔ノ中窩ヲ領シ、^丁テ、^乙ル、^丙ハ大脳ノ最廣部ニ

丁テ、^乙ル、^丙ハ大脳ノ最廣部ニ

甲 蝶骨、ホス、シリ、スル

ルニテ、前葉ト分界ス、此裂間ハ、外方ニ彎曲シテ、
 蝴蝶骨ノ小翼ヲ含有スル者ナリ、甲后葉ホス、シリ
 ス、ハ、中葉ト分界ス可キ線ヲ有セス、天幕上ニ占
 據スル大脳ノ一部ニシテ、小脳ヲ覆歴シ、其下面
 ハ稍ヤ凹陷シテ、小脳ノ凸隆セシ上面ニ啣接ス
 大脳半規形ハ、其面全ク迂曲廻轉シタル隆起所
 謂迂廻コシ、ウリ、ユヲ為セリ此迂廻ハ、皆十腦軟
 膜ノ延長部ヲ含有スル、深キ裂間丙ニテ、
 互ニ分界シ、其大小大抵同一ナリ、裂間ノ縁ニテ
 圓形ト為リ、稍、扁平ナル頭頂ヲ有ス、然レ其經

乙 セレ、ブレ、シル、コン
ウ、リ、ユ、ン、ユ、ン
丙 サ、レ、シ

甲 乙、キ、エ、ラ、ソ、フ、ス、テ、ス

乙 乙、イ、ブ、ロ、ス、ソ、フ、ス、テ、ス

過ノ方向ニ至テハ、數種ノ腦ニ於テモ、一個ノ腦
 ニ於テモ、亦曾テ同一ナルナシ此迂曲中ニ、殊異
 ナル者三個有リ、第一個ハ、兩側ニ於テ胼胝躰ヲ
 超テ彎曲シ、第二個ハ稍、隱伏シテ、大縦裂間ノ縁
 ヲ為ス、第三個ハ、シル、竅裂間ノ縁ヲ為シテ、此裂
 間内ニ蔵スル、數個ノ小ナル迂曲ヲ含有ス
 大脳ノ外部ハ、灰白質ヨリ成ル、之ヲ皮甲様質コ、ル、チ、カ、ル
 テンブス、ト稱ス、内部ハ白質ヨリ成ル、之ヲ髓乙様
 質メ、ジ、エ、テ、レ、ス、ト稱ス、各其部位ニ從フ故ニ大
 腦半規形ヲ横斷セハ、白質ノ卵圓形中心部ヲ呈

其面ニ、血管ヲ截斷スルヨリ生スル、赤點ヲ散
 布シ、其周圍ニ、迂曲ニ配匹スル、許多ノ突起有リ
 テ、皆十皮様質ニテ被包シ、此質ハ滿地皆十同厚
 ノ層ヲ為シテ、大脳半規形ノ迂曲、及ヒ裂間ノ條
 路ニ沿ヘリ、又タ胼胝躰ノ水平ニ方テ半規形ヲ
 横斷セハ、白質ノ橋有リテ、兩個ノ白質卵圓形中
 心部ヲ結合ス、

腦ノ底面ヲ翻轉セハ、大脳ノ後葉ハ、全ク小脳ニ
 テ蔽藏シ、小脳ノ前方ニ延髓及ヒ橋有リ、橋ノ前
 方、即チ大脳ノ中線ニ沿テ、逐次ニ大脳脚、乳頭隆

大脳脚

起、漏斗、粘液躰、視神經、視神經結合、及ヒ嗅神經有
 リ、以下之ヲ辨説ス、

大脳脚 ビクビク ヲラ、ゴ、ハ、兩個ノ大ナル圓柱形ニ

シテ、橋ノ前部ヨリ大脳中葉ノ内側ニ分歧シ、其

面縦線ヲ呈シ、外部ハ、白質ヨリ成リ、内部ハ、聚合

シタル灰白質ヲ含有シ、此脚ヲ横斷セハ、其内部

ノ灰白質ハ半月狀ノ層ヲ為セリ、又其兩個ノ前

部ニ間隙有リ、テ乳頭隆起、及ヒ漏斗ヲ含有シ、間

隙ノ後角ハ、深キ歛窪ヲ形成セリ、此歛窪ハ、灰白

白質ノ混合物ニテ、第三室ヨリ分界シ、許多ノ細

アラスチンキハペルホレ
一ス。ポストレマ

乙三子シキハマミリス

丙子シ

血管ニテ穿孔セラレ、故ニ後穿孔質ポスレルホレペーテド、スト稱ス

乳頭隆起マムミラシスハ兩個ノ小ナル白色球形ニシテ、互ニ抵觸シ、後穿孔質ノ直前ニ在リテ上部ハ天井ノ前脚ニ結合シ内部ニ灰白質ヲ含

有ス

漏斗ビユンロムハ即チ漏斗狀ニシテ、乳頭隆起ノ前方ト、視神經ノ後方トノ中間ニ位シ、其質ハ灰白質ヨリ成リ、中虚ニシテ第三室ノ底ヲ形成シ、其廣基ハ漸次ニ狹隘ト為リテ、管狀延展ヲ成

甲子シ

キイマ、ラプキユ

シ、斜ニ下前方ニ向ヒ密閉シ了ル

粘液躰ピトダイタルハ、蝴蝶骨ノ粘液窩ヲ領シテ、漏斗ノ末端ニ結合ス、其質ハ結締織ヨリ成リテ、過饒ノ血管ヲ具有シ、粒狀物、核及ヒ含核セルヲ混合シ、帶赤灰白色ヲ呈シテ、稍強硬ナリ而テ横腎狀前葉ト、小球狀後葉トニ分界ス、

視神經ノ詳説ハ、其條下ニ譲ル、

視神經結合ラプキユハ、大脳脚ノ外側ヨリ會合スル、兩視神經根ノ結合ニテ形成シ、漏斗ノ前方ニ位ス、其説ハ視神經ノ條ニ具ス

多ステキア、ペルホ
レータ、アンテリオル

嗅神經ハ亦其條ニ詳ラカナリ

視神經結合ト嗅神經根トノ中間ニ於テ、兩側各

前穿孔質アレンテリオル、ペルホ有リ、乃チ大腦ノ

内部ニ竅入スル、過饒ナル血管ノ穿ツ所ナリ

大腦半規形ヲ、各側ニ壓セハ、大縦裂間ノ底ニ凸

隆スル白髓、所謂胼胝髓有リテ、此裂間ニ沿ヒ、前

方ニ達スルヲ數インチ以テ兩半規形ヲ結合ス

胼胝髓コロポス、カハ、兩大腦半規形ノ、白質中心

部ヲ結合セシムル、同質ノ橋ナリ其長殆ト三イ

ンチ幅一インチ四分ノ三ニシテ、前後比例スレ

コ
マ
シ
ユ
エ
マ
チ

ハ多ク前方ニ僻據シ、前部ハ稍、狹隘ナリ其上面

ハ縦ニ彎曲シテ、乃縦線ヲ呈シ、且ツ中線ノ兩側

ニ於テ、一個ノ微細ナル縦線ヲ呈ス、其前後兩縁

ハ厚ク且ツ圓クシテ、裂間ニ由テ其近傍、大腦半

規形ノ灰白質ト分界ス

大縦裂間ニ沿ヒ、腦ヲ縦斷スレハ、胼胝髓ハ、白質

ノ厚層ニシテ、兩半規形ノ、第一迂廻ノ底下ヲ過

行ハ此髓ノ前部ハ、自ラ重疊シテ、厚層ヲ為シ、而

テ下方ニ彎曲シ、視神經ニ達シ、第三室ノ前部ヲ

閉鎖セル薄板ト為ル、其右端ハ、大腦ノ底面、四疊

甲 小脳キスセレアリ

躰ノ部位上、即チ小脳ノ最モ隆起スル所ニ達ス

天井

天井キスハ、胼胝躰ノ后部ニ連合シテ、其底下

ヲ前方ニ彎曲シ、其前部ニ達スル白質ノ薄層ナ

リ、上面或ハ下面ヨリ之ヲ視レハ、其形チ三角ナ

リ、上面ハ中線ニ沿テ、胼胝躰及ヒ透明中隔ニ連

合シ、中線ノ側方ハ、側室下床ノ一部ヲ形成ス、其

下面ハ、穹隆シテ、縦横兩線ヲ呈シ、乃チ第三室ノ

天井ヲ形成ス

天井ノ尖端ハ、二部ニ分界ス、之ヲ合セテ其前脚

乙 クリユラアテリオ
クワラルニシス

甲 クリユラ、ボステリオ
クワラルニシス

乙 セプトムベリユシジム

丙 クリユラ、ボステリオ、
クワラルニシス

ア クリテリオト稱シ、稍々分歧下行シテ、乳頭隆起

透明中隔

ニ達ス、基礎ノ兩角ヲ其後脚ボステリオト稱ス、

延長シテ側室ノ中角ニ達シ、剪絲躰ニ連合ス

透明中隔

透明中隔セプトムベリユシジムハ、胼胝躰ト天井ノ中間、

乃チ腦ノ中線ニ在ル、神經質ノ薄板ニシテ、乃チ

兩側室ヲ分界シ、狹隘ナル裂間、所謂第五室クワラルノ

リ、クワラルヲ含有ス、此室ハ、四壁皆ナ閉鎖シ、緻密ナ

ル清膜ニテ、其裡面ヲ被包ス

此中隔ハ、其外面灰白質ヨリ成リ、内面、即チ第五

室ニ對スル所ハ、白質ヨリ成レリ

側室

甲
シントリキユリ、
テラールス

側室 シラテラールハ、胼胝躰ノ底下兩側ニ於テ、各

乙
コルニユラ

一個ヲ構成シ延長シテ大脳半規形ノ三葉ニ達ス、其延長部ヲ、前中后三個ノ角コルニユラト稱ス

此室ハ、各、胼胝躰ヲ其上屋ト做シ天井ヲ下床ト

做シ、透明中隔ヲ内壁トシ、線條躰ヲ外壁トス

丙
コルニユラ、アンテリユス

前角 コルニユラハ、自餘ノ兩角ニ比スレハ、著明

トラス、線條躰前端ノ周圍ニ於テ、室腔ノ延長セ

ル者ニ過キス

甲
コルニユラ、メジユ

中角 コルニユラハ、下方ニ彎曲シテ、大脳ノ中葉ニ

到ル、其底ノ内部ニ、隆起スル厚キ線有リテ、下端

乙
ヒツホカムホス、メジユ

ハ、齒狀ヲ為セリ、之ヲ海馬足 ヒツホカムト稱ス、此線

丙
コルニユラ、ヒツホカム

ノ上縁ニ、白色ノ帶有リ、之ヲ剪線躰 コルニユラト稱ス、此線

ト稱ス、天井ノ后脚ニ連合ス

丁
コルニユラ、デンタタ

海馬足ノ外部ハ、白質ヨリ成リ、内部ハ、灰白質ヨ

リ成レリ、而テ灰白質ハ其内側ニ於テ、齒狀帶 コルニユラニ

戊
コルニユラ、ポステリユス

テ、コルニユラト稱ス、コルニユラヲ為シ、表面ニ露出ス

右角 コルニユラハ、内方ニ彎曲シテ大脳ノ后葉

ニ達シ、其内側ニ、白色ノ距狀起線有リテ突出ス、

甲ノカホスアール

之ヲ距^甲ツエトル^乙或ハ小海馬足ト稱ス
兩側室ハ天井前脚下ノ孔ニテ互ニ交通シ且ツ
第三室ニ通入四壁ハ皆十閉鎖シ細精ナル膜ニ
テ其裏面ヲ被包ス

線條躰

線條躰^トトボ^トライ^イテハ側室ノ外壁ヨリ其腔中ニ

突出スル半梨子狀ノ隆起ニシテ之ヲ截断セハ

線條ノ景況ヲ呈ス故ニ其稱トス其廣部ハ前方

ニ在リ狹部ハ后方ニ彎曲シテ視神經床ノ外側

ニ達ス其質ハ外面ヨリ灰白質ヲ以テ成リ其内

乙ノカホスアール

甲ノカホスアール
三六

面ニ一層ノ白質有リ又々其内面ニ灰白質ノ^甲

シス様^乙核^丙ハ^丁子^戊キ^己ス^庚有^辛リ^壬此^癸核^甲ノ^乙前^丙下^丁方^戊ト^己其

外側ニ又々各灰白質ノ小簇有リ此核ハ大脳脚

ノ分岐纖維ニテ透過セラル^乙ヲ以^丙テ^丁之^戊ヲ截断

スレハ亦々線條ノ景況ヲ呈ス

側室ノ床ニ於テ腦軟膜ノ著明ナル脈絡副有リ

之ヲ脈絡叢^乙ト^丙稱^丁ス^戊天井前脚ノ底ニ

アル孔ヨリ其側ヲ沿テ側室ノ中角底ニ下行ス

蓋シ此叢ハ天井ノ底下ニ於テ腦軟膜ノ中蓋ニ

連合シ側室ノ裏被膜ノ外方ニ在リテ其腔中ニ

テニアセミシキユリス

チユルキユロムノホリス
アンチユスエントトスホ
ステリユス

コルボラセニキユレ
タ

エ
コルボラセトリゼミナ

視神經床ノ前方及外側ハ細小ナル白質ノ半
 輪狀帶ニシテ線條躰ト分界ス其前後
 兩部ニ隆起有リ之ヲ視神經ノ結節チユルキユト
 稱ス後結節ノ底下ニ兩個ノ白色凸起アリ之ヲ
 膝狀躰チユルキユト云フ半ハ視神經根ノ起
 點ト為ルコト也
 四疊躰
 四疊躰ハ第三室ノ後部ニ在ル白色
 方塊ナリ其上面十字形ノ溝ヲ成シ四個ノ隆

起ニ劃界ス故ニ四疊躰ト稱ス視神經床ヨリ小
 腦ニ斜達シ上脚ニテ小腦ニ連合ス其側方ハ視
 神經床及ヒ膝狀躰ニ固着シ且ツ一帯ノ白質ニ
 テ大脳脚ト小腦トノ中間即チ橋ノ後部ニ聯接
 ス蓋シ此躰ト胼胝躰ノ後縁トノ中間ニ裂間ア
 リ即チ腦軟膜ノ中蓋第三室ノ天井ニ浴テ進行
 スル條徑ナリ又此躰ノ底下ニ第三室ヨリ第四
 室ニ通スル路アリ
 松葉腺

松葉腺ハ微小ナル圓錐形ノ灰白質ニ

甲 ペシユンキヲ、ニリ

シテ、亦タ一對ノ白質根ヲ生ス、之ヲ其脚甲ニペクシユ
スト稱ス、恰モ肉又ノ如ク分岐シテ、視神経床ノ
内側ニ到ル蓋シ此腺ハ一種特異ナル者ニシテ
砂石様ノ顆粒ニシテ骨ノ土質ニ彷彿タル成分
ヲ有スル者ヲ含メリ

第三室ノ結合

甲 ヌラニ、ア、ニ、オ、ル

第三室内ニ、前中後三個ノ結合有リ前結合甲ニ
シテ、オ、ル、コ、ムハ、横緯ノ白色圓柱形ニシテ、此室ノ
前部即チ天井ノ前脚ト、胼胝体トノ中間ニ位シ
其質ハ、線條体ノ下部ヲ竄通シテ、大脳半規形ニ

チ コムニ、エ、ラ、メ、ジ、ア

達スル、神経纖維ヨリ成レリ中結合甲ニシテ、コ、ム

ハ灰白質ノ圓形峽ニシテ、此室ノ中央ヲ横行シ

兩視神経床ヲ給合セシム後結合乙ニシテ、コ、ムニテシユ

ハ、白質ノ薄板ニシテ、視神経床後部ノ中間ニ

達シ、四疊体ト松葉腺トヲ結合セシム

小脳

丙 セレ、ブ、ロ、ス、パ、ル、ウ、ム

小脳乙ニシテ、ハ、大抵腦部ノ八分一ヲ形成シ、頭腔

ノ後窩ヲ領シ、天幕ノ底下ニ在リテ、大脳ノ后葉

ト分界ス、其兩側部ハ、大脳ノ如ク半規形ニシテ、

スヨリ成リ、後下方ニ於テハ、廣深ノ溝乙ニシテ、

丁 エ、ス、ニ、リ、ア、セ、ギ、リ
戊 ウ、エ、ル、リ、ス

甲
イニ五リオハ、ウレミ
ゾーハ、プロセツス

五
ミダリ、トシ、ニ

テ互ニ分界ス兩半規形ヲ結合スル緊要ナル部
ハ、其中間ニ在リテ、上面ヨリ之ヲ視レハ、著明ナ
ラス、下部、即チ溪底ヨリ視レハ、肥厚ナル蟲狀隆
起線ヲ成セリ、故ニ蟲狀隆起（プロセルミ）ト稱
ス
小腦ハ、其上面凸隆シ、殊ニ其前部最モ隆起シテ
兩半規形結合ノ中線ヨリ、其側縁ニ傾斜ス下外
兩面モ亦々凸隆セリ
其外部ハ、大腦ノ如ク灰白色ヲ呈シ、許多ノ裂間
ニ由テ殆ト平行ノ板（板）ヲミニ分レ都テ横行ノ方

向ヲ為セリ其内部ヲ檢スルニ、白質ノ三稜柱幹
ヨリ成リ、柱側ヨリ、凡ソ十二個ノ廣キ薄板ヲ分
出ス、此板、再ヒ第二列ノ薄板ニ分レ、是レ亦々屢
再分セリ此白質ノ分板ノ周圍ニ灰白皮様質（ルコ）
チカル、グレンス、疊襲ス、其疊間ハ、乃チ小腦外部ノ
裂間ニ當レリ故ニ之ヲ縦斷スレハ、樹枝形ヲ呈
シ、横斷スレハ、唯々白色髓様質（メ）ヲ見ユラレシ、ホ
ンノ廣面ヲ顯スノミニシテ、周圍灰白質ニテ分
界セリ

蟲狀隆起ノ構造ハ、半規形ト同一ニシテ、唯々大

解川川
卷之二六
百

トニオハ、ドシクルス

小腦半規形ニ進行スル神經纖維ノ大束ヨリ成
 レリ、小腦ニ於テ、此他尚ホ上下ノ兩脚有リ、脚
 ソベリクルルハ、兩個ノ扁平ナル圓柱狀ノ白帶ニ
 シテ、小腦半規形ノ内部ノ白質ヨリ、四疊躰ニ斜
 メニ上行シ、且ツ輻輳シ此脚ト小腦ノ蟲狀隆起
 トノ、三角間隙ハ、白質ノ薄板ニテ密閉ス、之ヲ腦
 辦ビブルダト稱シ此辦ハ、周縁皆テ固着シテ、
 第四室ヲ被覆シ、其上面ニ於テ、横畦ヲ有スル、灰
 白質ノ舌狀突起アリテ、小腦ヨリ延長シ、下脚ニ
左トニオハ、ドシクルスハ、細小ナル白帶ニシテ、半規形ノ内

トニオハ、ドシクルス

トニオハ、ドシクルス

トニオハ、ドシクルス

部ヨリ下行シ、延髓ノ索狀躰ニ連合シ、三脚中ニ
 於テ、下脚ヲ最小ナリトス

橋

橋ポンスハ、方形ノ白躰ニシテ、大脳底面ノ稍々后
 部、小腦ノ前部、即チ枕骨ノ基礎突起ノ上部、及チ
 蝴蝶骨ノ斜坡ニ位シ、其上面ハ、凸隆シテ、横線ヲ
 呈シ、其前后兩縁ハ、圓ナリ、下面ノ中線ニ沿ヒ、淺
 溝有リテ、基礎動脈ヲ含有シ、且ツ細孔有リテ、此
 動脈ノ細小貫枝ヲ竄入セシム

延髓

延髓ニキジキユマ

延髓^{ミエ}ハ、腦ノ四部中最小ナル者ニシテ、形^{カタ}キ白色ノ梨子狀ナリ、小腦ノ前方ニ在テ、即チ枕骨ノ基礎突起ノ溝中ニ占據シ、其長サ一センチ強ニシテ、脊髓ニ到リ接連シ、而テ其同裂間ニ連合スル。前中后中兩裂間^アニボステリオル、エニツジユニテ兩側部ニ分界ス、而シテ兩側部又尖形橄欖索狀、舌尖形ノ四躰ニ界ス、以下之ヲ論列ス。

尖形躰^ヒボテラシタルハ、即チ尖形ノ白躰ニシテ、前中裂間ノ各側ニ位シ、下端ハ脊髓ノ前側兩柱ニ

延髓ニキジキユマ

テラスセーキスロラミ

連接シ、上端ハ厚圓ニシテ、橋ニ結合ス。此躰ノ白質ノ一部前中裂間ノ下端ニ於テ、一側ヨリ他側ニ横行スル有リ之ヲ^甲交叉^シト稱ス。此躰ノ構造ハ三稜柱狀ノ束ヲ為セル、神經纖維ヨリ成ル、蓋シ此纖維ハ脊髓ノ前側兩柱ヨリ橋ニ上行スル者ナリ、即チ内部ノ纖維ハ脊髓ノ側柱ヨリ上行シ、且ツ他側ヨリ横行シテ、所謂交叉^乙ヲ形成シ、側部ノ纖維ハ同側ノ脊髓前柱ヨリ上行

コルネリオリ

橄欖躰ボラリは白色ノ卵圓形隆起ニシテ、

前者ノ外側ニ位ス其質ハ白質ヨリ成リ、周縁

褶襞スル灰白質ノ囊狀層ヲ含有ス故ニ之ヲ截

斷セバ其層ハ此躰ノ中心部ニ在リ鋸齒狀ノ卵

圓形核ヲ呈セシム之ヲ橄欖體ノ鋸齒體ト稱セ

ル

此躰ノ白質ハ神經纖維ノ束ヨリ成リテ、下方ハ

脊髓前柱ノ白質ニ連合シ上方ハ大脳脚及ヒ四

疊躰ニ到レリ一特ニ此躰ノ質ハ

索狀林トシテ、前者ノ外治方ニ位シ、脊髓

コルネリス

コルネリス

ヨリ分岐上行シテ小脳又下脚ニ連合ス其質ハ

白質ヨリ成リ、灰白質ヲ含有ス而テ白質ハ、脊髓

後角ニ連合シ、灰白質ハ、脊髓後角ニ連合ス

後尖形躰ボラスハ前者ノ後方即チ后中

裂間ノ各側ニ位シ、第四室ノ側方ニ分岐シ其質

ハ兩個ノ細小ナル白質ノ束ヨリ成リテ、下方ハ

脊髓ノ后中柱ニ連合シ上方ハ小脳ノ下脚中ニ

消滅ス

延髓ノ兩側ニ弓狀纖維有リ、橄欖躰ノ下部ヲ

横行シ、尖形索狀ノ兩躰ヲ結合ス之ヲ弓狀纖維

コルネリス

此床ニ數個ノ小凸隆アリテ其面平坦ナラス脊
髓ノ灰白質ニ連合スル同質ニテ被覆シ且ツ各
側ニ白キ緯線有リテ聽神經ノ根蒂ニ結合ス
床ノ下角ニ小窪アリ胎兒生活中ニ於テ脊髓ノ
中心ヲ沿テ存在スル一管ノ上端ナリ
此室ノ下部ハ蜘蛛糸膜ニテ閉鎖スレ氏既ニ論
スル如ク脊髓ノ蜘蛛糸膜下腔ニ連合ス

脊髓

脊髓 スパイナ ハ發動機ノ中心ニシテ膜ニテ被
包シ脊椎骨ノ管中ヲ充實シ上端ハ延髓ニ連合

下ラスパイナ

シテ枕骨孔ヨリ起リ下端ハ腰椎第一片ノ下部
ニ了ル

胎兒成形ノ際ハ脊髓ノ長ク脊椎柱ノ長サニ配
スレ氏胚胎第三ヶ月ニ至レハ脊椎柱ハ特ニ増
長スルニ由テ脊髓ハ稍長スレ氏退縮スルカ如
久其初生ニ至レハ脊髓ノ長ク唯々腰椎ノ第三
片ニ達スルノミ

脊髓ハ其長サ十五乃至十八「インチ重サ平量ノ
一「オンズ半其常形ハ圓柱狀ニシテ前面ヨリ後
面ニ壓搾シ其横徑ハ諸部ニ從テ同徑ナラス乃

甲 イントメスセシキカセ
ル解カリス

乙 イントメスセシキカセ
ル解カリス

千頸部ニ於テハ、膨脹シ、頸椎第三片ヨリ、背椎第
 一片ニ達スル、**頸肥大** ラセルギメカルクエンヲ呈ス、此
 部位ノ下方ハ、大抵同徑ニシテ、背椎ノ末片ニ對
 シ、再ヒ擴張シ、**腰肥大** ラロインジバルクエンヲ呈シ、而テ
 後千圓錐狀端ト為リ終ル
 頸腰ノ兩肥大ハ、脊髓ノ此部ヨリ生スル神經ノ
 大ナルニ配匹スル者ナリ、自餘神經ノ生スル部
 ハ、皆十稍肥大シ、以テ脊髓ノ側縁ヲシテ、波濤様
 ノ景況ヲ呈セシム
 脊髓ノ外部ハ、白色ノ神經質ヨリ成リ、内部ハ、灰

甲 イツジユラロシキユ
ナリス、アテリオル

乙 イツジユラアテリオル

丙 イツジユラロシキユ
ナリス、ポステリオル

白質ヨリ成レリ、而テ白質ハ殊ニ頸部ニ多シ
 此髓ハ、前中後中兩裂間ニテ、兩等邊部ニ分界ス
前中裂間 アアテリオル、メハ、脊髓ノ横徑殆ト
 三分一二竈入シ、其下方ニ行クニ從フテ深シ、而
 テ其底ニ白質アリテ、此髓ノ兩側部ヲ結合ス、之
 ヲ**前結合** イアトコムミツシユールト
 或ハ**白結合** イアトコムミツシユールト
 後中裂間 アアテリオル、メハ、前者ニ比スレハ、
 稍狹隘ニシテ、且ツ多クハ深シ、其下方ニ行クニ
 從フテ淺シ

オシユラテラリス
オシユラテラリス

脊髄ノ各側ヨリ、其神經ノ生スルヤ、前後ノ两根ニ基ツク、而テ其生スル所、皆十僅カニ凹陷シ、前側後側兩裂間アルテリオル、エンドポステリス生ス殊ニ後側裂間ハ、脊髄灰白質ノ其底ニ達スルヲ以テ前側裂間ニ比スレハ、多少著明ニシテ、脊髄後部ノ白質ヲ、全ク前側部ヨリ障隔スルニ至ル
脊髄ノ兩側部ハ、其裂間ニテ、各三柱ニ分界ス即チ前中裂間ト前側裂間ノ中間ニ含有スル者ヲ前柱アンテリオルト做シ、前側後側兩裂間ノ中

オシユラテラリス

オシユラテラリス

オシユラテラリス

オシユラテラリス

間、即チ脊髄神經两根ノ中間ニ含有スル者ヲ側柱ラテラルト做シ、後中裂間ト、後側裂間ノ中間ニ含有スル者ヲ後柱ポステリオルト做シ、而テ前側裂間ハ、尋常著顯ナラサルニ由リ、前側兩柱ヲ合シテ一ト做シ、前側柱アンテリオラテラリスノ名ヲ下スノ有リ

脊髄ノ上部ニ、細小ナル一對ノ白柱有リ、後中裂間ニテ互ニ分界シ、延髓ノ後尖形躰ニ連合ス之ヲ後中柱ポステリオラテラリスト稱ス
脊髄ヲ横斷セハ、其灰白質ハ兩個ノ新月樣州ト

解剖川卷 卷之十六 二五

甲 コルニユア

乙 コルニユア、アンテリヲラ

丙 コルニユア、アンテリヲラ

丁 コルニユア、ポステリヲラ

戊 コルニユア、ポステリヲラ

一個ノ横州トヲ為セリ而テ新月様州ハ各側ニ
 對在シテ凸面ハ横州ニテ互ニ結合シ、兩端ハ前
 後ニ向フ之ヲ前後ノ角角ト稱ス、横州ハ後
 結合或ハ灰白結合レボス、コテリオル、フス、ト稱ス
 前角前角ハ短矮ニシテ肥且ツ鈍脊髓
 ノ前側中ニ在リ、後角後角ハ脩長ニシ
 テ、脊且ツ銳ナリ、其尖端ハ灰白質ノ多ク透明ナ
 ル部、即チ膠狀質膠狀質ソズブレステノイストニテ帽被シ、前側
 柱ト後柱トヲ分界シ、後側裂間ノ底ニ達ス
 灰白質ハ新月様州ハ脊髓ノ下端ニ近邇スルニ

甲 ピア、メニンキス

隨ヒ、其形チ著明ナラス、白質ノ量モ亦タ減少ス

腦脊髓膜

腦及ヒ脊髓ノ膜ハ四層有リ、曰軟膜、曰固有膜、曰
 硬膜、曰蜘蛛糸膜是ナリ

軟膜

軟膜軟膜トハ、細精ナル纖維脉絡膜ニシテ、腦及
 ヒ脊髓ニ周布密被シ、其構造ヲ維持保護シ、且ツ
 過饒ナル毛細血管ノ始末ノ點ト為レリ而テ其
 部位ニ隨テ腦軟膜ト脊髓軟膜ニ區別ス

腦軟膜

腦軟膜 ビピア、グマリトシル ヲノ造構ハ、脈絡網ニ基ヒ
 ス蓋シ内頸及ヒ脊椎兩動脈ノ枝別ハ、共ニ血液
 ヲ腦ニ輸送スル者ニシテ、屢錯綜交互スルヲ以
 テ腦面上ニ於テ先ツ脈絡網ヲ織成ス而シテ此
 網ハ、過鏡ノ靜脈ヲ混合シ、且ツ細精ナル纖維織
 ノ綜束ニ由テ強韌ト為リ遂ニ膜ヲ形成ス
 其ノ延長部ハ、皆十腦ノ裂面ニ竄入シ其脈ハ、腦
 ノ毛細管血ヲ輸送出入セシム故ニ此膜ヲ剝離
 スレハ、毛細管ノ腦ヨリ中斷放下スルヲ以テ膜
 ノ内面、纖毛下垂様ノ景況ヲ呈ス

甲之果不ト稱シテ云

此膜ノ延長中ニ於テ、一異ナル者ヲ 甲 中蓋 イ ル ポ ト
スド、左 ト 稱ス

大小腦ノ中間ヨリ、胼胝躰ノ後縁、四疊躰ノ上ニ
 沈没シ第三室ニ達シ、天井ノ形ヲニ穹隆シテ、其
 下面ニ沿ヒ延長シ、中線ニ從ヒ、二個ノ室靜脈ヲ
 含有ス、此靜脈ハ、互ニ平行シ、合シテ一短幹ト為
 リ、腦硬膜ノ直竇ニ開口スル者ナリ

乙之果不ト稱シテ云

此中蓋、天井ノ側縁外ニ延長シテ 乙 側室脈絡叢
イ ド ブ レ キ ユ シ ス ク ラ ダ セ ヲ 形成ス、此叢ハ、兩個
ラ テ ラ ル ク ニ ト リ ク ラ ダ セ ヲ 形成ス、此叢ハ、兩個
 ノ著明ナル脈絡副ニシテ、紛乱纖細ノ赤糸ニ類

出スル有リ蓋シ其穿孔スルヤ壓搾ニ由ルナラ
ン加之ナラス其近傍頭顱ノ骨壁モ亦々動ヒス
レハ此躰ニテ吸収セラル、フ有リ往者此躰ヲ
誤リ認メテ腺ト做セリ然レモ初生兒ニ於テ缺
凶スルヲ以テ考フレハ其屢存在スルニ拘ハラ
ズ、疾病的ノ產物ト做スベク生來ノ固有ニ非サ
ルヲ必セリ

脊髄軟膜

脊髄軟膜 ピア、マ、イ、ナ、ル、コ、ル、ド、ウ、ゼ、ハ、腦軟膜ニ比ス
レハ、脈絡鮮久、纖維織多シ、故ニ多ク細精ニシテ、

リカントムテンキキモ
トム

且ツ鞣強ナリ直チニ脊髄ヲ密覆シ、薄キ延長ヲ
生シテ、前中后中兩裂間ニ竄入シ前面ニ於テ縱
纖維帶ヲ呈シ、兩側即チ脊髄神經ノ兩根中間ニ
於テ鋸齒狀鞣帶 ト、デ、リ、ン、ガ、メ、キ、ユ、レ、ヲ形成ス此鞣
帶ハ、突隆スル纖維躰ニシテ、其外縁深キ齒狀ヲ
爲ス、恰モ鋸ノ如シ、而テ其齒ノ尖點ハ、脊髄神
經ノ中間ニ於テ硬膜ニ固着ス

此膜ハ、脊髄ノ下端ヨリ、中腔ナル糸狀ノ延長ト
爲リテ、脊椎管ノ末端ニ至リ、硬膜ニ固着ス、此延
長、中腔ハ脊髄灰白質ノ延長ヲ充實ス

固^甲有膜

固^甲有膜 テ^エ | ^マ | ^ン | ^ハ | 精微透明ナル清膜ニシテ、腦ノ諸室ト胎兒ノ脊髓中心管ヲ裏被ス、初生兒ニ於テハ、其内皮顫毛「セル」ヨリ成リ、高年ニ至レハ、其顫毛消耗ス

硬膜

硬膜 | ^ジ | ^ト | ^ユ | ^ラ | ^マ | ^ハ | 腦及ヒ脊髓ノ外被ナリ、緻密強靱ニシテ、縮張ス可ラス、其色ハ、帶青白ニテ、其質ハ、纖維織ノ錯綜シタル束ヨリ成レリ亦々其部ニ從ヒ、腦硬膜ト、脊髓硬膜トニ區別ス

硬^乙膜

腦硬膜

腦硬膜

腦硬膜 | ^ジ | ^ユ | ^ラ | ^マ | ^レ | ^ト | ^ル | ^ハ | 密接セル兩層ヨリ成

レリ外層ハ、他部ノ骨膜ニ匹シ、許多ノ微細ナル血管ト纖維織トニテ、頭顱骨ノ内面ニ固着シ殊^ニ其骨ノ縫合及ヒ孔ノ周縁ニ、強ク固着ス内層

ハ、脊髓ノ硬膜ニ配シ、其内面滑澤ニシテ、蜘蛛糸

膜ヲ周被ス、而テ此層ハ、小腦大腦ノ中間及ヒ其

兩半規形ノ域間ニ延長シテ、強靱ナル中隔ヲ形

成シ、腦塊ヲ擁護ス大縦裂間ニ在リテ、兩大腦半

規形ヲ劃界スル中隔又、^大腦鎌隔 | ^ス | ^ル | ^キ | ^ラ | ^ル | ^ト |

スルキス、セレプリ

ト、セレベリ

ト、セレベリ

稱ス篩骨ノ鶏冠ニ固着シテ、爰ニ起趾シ上縦竇ニ沿テ、後方ニ進行シ、漸々廣濶ト爲リ、天幕ニ結合ス、其形チ鎌ニ彷彿タリ、依テ其名ヲ命ス
 溪ニ在リテ、小腦ノ兩半規形ヲ判別スル者ヲ小腦鎌隔セレベリスト稱ス天幕ヨリ下行シテ枕骨孔ニ達ス
 小大腦ヲ界域スル者ヲ天幕トト稱ス其中線ニ沿テ、大腦鎌隔ニ連合シ、爰ヨリ兩側、即チ下外後方ニ傾斜シ、枕骨叉線ノ側枝、及ヒ顛顫骨岩狀部ノ上縁ニ固着シ、其内縁ハ巨大ナル卵圓形

ヲ爲シテ、大腦脚ノ橋ヨリ、大腦半規形ニ分岐スル者ヲ受容ス

硬膜ノ兩層ハ、處々ニ於テ、互ニ離隔シ、管狀ヲ形成ス之コ硬膜竇サイノシスト稱ス其内

竇ハ、尋常血管ノ内皮ニテ被包シ、靜脈ノ作用ヲ成就シ、腦ノ毛細管ヨリ、血液ヲ歸流ヒシムル軟膜ノ靜脈ハ、皆チ此竇ニ開口シ終ル

中ニ就テ、上縦竇、直竇、兩側竇ハ、大腦鎌隔及ヒ天幕ノ基礎ニ沿テ、稜角間隙ヲ領スルヲ以テ、其形チ三角ナリ、自餘ノ竇ハ、細小ニシテ、一般ニ圓柱

形ヲ爲シ、頭顱ノ基礎ヲ占領ス、凡テ此竇ハ、詳カニ静脈篇ニ論セリ
此硬膜ハ、頭顱骨基礎ノ孔ヲ出ツル血管及ヒ神經ノ纖維莢膜ニ連合ス

脊髓硬膜

脊髄硬膜、シユエ、パイヤ、トコ、ル、ド、ハ、腦硬膜ノ内層ノミニ配對スル者ナリ、上方ハ枕骨孔ヲ通シテ、腦硬膜ノ内層ニ連合シ、其周縁ニ固着シ、下方ハ、脊椎管ノ末端ニ延長シ、脊髓及ヒ其神經ノ寬裕ナル莢膜ヲ形成シ、而テ枕骨孔ニ於ケル外、脊椎

ニラマートトクダナク

管ノ骨膜ニ固着セシテ、兩膜ノ中間、内脊髄靜脈叢、結締織及ヒ脂肪織ヲ充實ス
此膜椎間孔ニ對シテ、脊髓神經ノ根ニテ穿孔ヒラル、ヤ、其莢膜ト爲リテ延長シ、且ツ固ク椎間孔ノ周縁ニ附着ス

蜘蛛糸膜

蜘蛛糸膜、ハ、シ、ク、レ、ノ、イ、ン、ド、ハ、透明無色ニシテ、且ツ細密ナル清膜ナリ、軟硬兩膜ノ中間ニ在リテ、腦ヲ被覆シ、而後、硬膜ノ内面ニ翻轉シ、其中間空隙ヲ留ム、而テ翻轉部ハ、硬膜ノ内面ニ密着シ、被

甲ノゾクテ、ア、ラ、タイ、テ

覆部ハ大脳鎌隔小脳鎌隔及ヒ天幕ヲ含有スル
 裂間ノ他、腦及ヒ脊髓ノ裂間ニ沈没ヒスシテ、軟
 膜ノ外面ニ結合ス
 此膜ノ腦軟膜ニ結合スルマ、散布スル纖維織ノ
 束ト血管トニ由ル其中間空隙ヲ殘ス之ヲ蜘蛛
 糸膜下腔ソブアペラクト稱ス此腔ハ部位ニ從
 ヒ、其大小同一ナラス、腦底ノ中央、上縦裂間ノ底、
 及ヒ脊髓ニ於テ最モ大ナリ
 蜘蛛糸膜下腔ト、蜘蛛糸膜ノ空隙ヲ充實スル清
 液ヲ腦脊髓液セルブリカイドト稱ス、其量數ハ

ンスヲ算スベシ

第四室ノ床ハ此膜ヲ以テ閉鎖ス、然レ其空隙
 ハ蜘蛛糸膜下腔ト交通セリ
 此膜モ、亦タ管狀ヲ爲シテ、軟膜ヨリ硬膜ヲ出ツ
 ル腦脊髓神經ノ根ヲ緩ク被包ス

